

令和 5 年度第 1 回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：令和 5 年 6 月 5 日（月）15：00～17：00

場所：教育委員会室

議事 教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価について

■資料 1-1、1-2 に基づき事務局より説明

■主な意見

点検・評価方法について

- ・取組の結果が指標の結果に繋がると思うが、取組の評価が高いのに指標の評価が低いという結果は違和感がある。
- ・大学の中期計画では、その計画を測定するための指標を定性的・定量的にかなり議論して作り、その指標をどの程度達成したかをもって計画が進んだかどうかを見る。それが通常のやり方だと思うので、県の評価方法は少し不思議な感じがする。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で取組自体を行うことができなかった項目について、大学ではそもそも評価をしないという取り扱いをしている。そのような評価方法もあるのではないか。

議事 山口県教育振興基本計画の策定について

■資料 2-1、2-2 及び 2-3 に基づき事務局より説明

■主な意見

施策の内容について

- ・いじめの重大事態にスムーズに対応するため、どのように取り組んでいくのか、次期計画に反映して欲しい。
- ・子どもの体力向上について、新型コロナウイルス感染症の影響でマイナスになったところを今後取り返していけるよう、重点的に取り組んで欲しい。
- ・「DX」とは、組織や風土・文化の変革まで伴うものを言うのであり、使い方に留意する必要がある。
- ・不登校対策として、当事者が関係機関や専門機関とわかりやすく繋がることができるよう、組織化するなどの施策を取り入れてほしい。また、関係機関等と連携して、不登校になった子どもたちのその後を調査し、どういう方向を目指していくべきか確認してはどうか。
- ・現場の先生方の業務負担が減っているようには思えないので、県の方でしっかりと働き方改革を進めていただき、教員志望者の増加に繋げてほしい。
- ・山口県の強みであるコミュニティ・スクールと ICT 環境を活かした計画を作るということであるが、それらの成果をしっかりと内容に溶け込ませてほしい。

- ・現場の先生方の負担を軽くするためにも、学校と地域を繋ぐ補助者のような役どころを各学校に配置すれば、山口県らしい教育のあり方が出せるのではないか。

指標の設定について

- ・県民目線で見たとときに、施策に対する取組と評価する上での指標がマッチングしているかどうか重要である。設定されている指標が適切かどうかという視点で、指標の点検・評価を行う必要があるのではないか。
- ・設定された指標がきちんとその取組を評価するものになっているのかどうか、他機関等に預けて検討してもらうことが必要ではないか。

その他

- ・五カ年計画を作ったら、五カ年そのまま走り続けるのではなく、途中で変化が起こるのあれば変えていくという姿勢が大事。
- ・子どもたちのアンケートで、この計画を知らない子どもが約9割という結果であったが、計画ができたあかつきにはしっかりと子どもたちにも伝わるよう周知をしていくべき。